

どうしても「企画展のおまけ」的な見方をされてしまう所蔵作品展。しかし、その美術館らしさが最も出るのが所蔵作品展です。なんとと言っても、その美術館が様々な検討、調査の末に所蔵した作品で構成されているのですから。今回は所蔵作品展についてお話します。

さて、愛知県美術館の所蔵作品は約7600点以上。そこから百数十点の作品を選択し、所蔵作品展とします。



↑ 所蔵作品展の展示室の様子です。クリムトなど欧米絵画作品から日本画、陶芸、現代アートまで展示作品は多様です。

今回の所蔵作品展の特徴は第4室にあります。館長自らブログでお話しているように、この度の大地震を受けて急遽予定を変更、特別に被災地へ思いをよせた展示内容としています。災いを断ち切ると言われる密教法具から始まり、村上華岳の『散華』、そして東北地方ゆかりの佐藤忠良、舟越保武などの彫刻が並んでいます。実はこうした展示に対して、時期尚早ではないか、美術館は実社会とは違う空間だから魅力があるのでは等々

様々な意見も美術館内からあがりました。それでも、この時期に美術館が出来る事は何かを考えた結果、この展示に踏み切りました。所蔵作品展にはいつも、美術館で働く人たちの思いが込められているのです。



↑ 第4室の様子。心静かに作品と向き合える空間にしています。

おまけなんかじゃない(!?)所蔵作品展。企画展を見るとついつい疲れてしまって、という方には、10階のレストランで一休みしてからご覧いただくことをお勧めします。優雅な一日を過ごせること間違いなしです。

あと、6月4日には、所蔵作品について学芸員がお話するコレクション・トークも行われますー。

(F.N.)



↑ 企画展の感想を話しつつカフェで一休みしたら、所蔵作品展に行ってみましょう。